

# まなびと学



もくじ

特集

平成27年度版教科書のご紹介

新しい教科書の編集趣旨	2
平成27年度版「小学社会」の特色	4
小学校社会科における東日本大震災とその教材化	14
被災地における社会科教育の充実をめざして	17

# 新しい教科書の 編集趣旨

——平成27年度版の発行に寄せて——

早稲田大学教育・総合科学学術院教授

こばやし ひろみ  
小林 宏己

## 子どもを取り巻く「知識基盤社会」の進展

スマートフォンやタブレット端末が、街行く人々の手元でごく自然に利用される時代になった。教室でもタブレットを活用した授業の展開が進展しつつあり、学校外のいわゆる教育産業におけるICTの活用はさらに普及の度合いを増している。

21世紀は「知識基盤社会」の時代であるといわれて久しいが、それは「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」であるとされていた。そして、(1)知識には国境がなく、グローバル化が一層進む、(2)知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる、(3)知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる、(4)性別や年齢を問わず参画することが促進される、といった指摘もなされ、このような社会においては、「新たな知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤となる」といった時代の概観も示されてきた。(平成17年1月28日の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」)

今日子どもたちを取り巻く社会状況は、こうした「知識基盤社会」の様相をさらに深めながら情報化や国際化の影響を強く受けるようになってきている。子どもたちはこうした時代に育ち、やがて働き生きていくのである。

## いま求められる授業の姿

「幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一

層重要になる」ことに対して、学校教育と日々の授業は、いっそうの改善が求められている。言い換えれば、確かな知識に基づく、柔軟な思考力と的確な判断力が育まれる授業、「深く考え、豊かに表現する子ども」の育成をめざす教育の実現が望まれるのである。

以下に、いま求められている子どもの学びのあり方を例示してみる。

第一に、「自分にとっての問題を粘り強く考える」ことである。そのためには、しばしば見かける「つかむー調べるーまとめる」といった予定調和的な「問題解決過程」、教師の立てた計画に従って予定通りに展開していく(させてしまう)授業は、再考されなければならない。子どもにとって問題になること、地域や人々(他者)にとって問題であることを、単元を通じて粘り強く、ぎりぎりまで追究していく子どもの姿を期待したい。

第二に、「自らの経験と新たな知識を生かして、柔軟に考える」ことである。そのためには、実感をもてないままの言葉だけの知識、手続き的なハウツーで済ませてしまう子どものありかたを見逃してはならない。既有・既習の経験・知識を再構成し、新たに複数の事実、事象に当たりながら、「たぶん～ではないか」「もしも～であれば、こうなるはずだ」といった予測と推量の思考法を身に付け、多様な方法を試したり、新たな着想を進んで活かそうとしたりする柔軟さと決断力を期待したい。

第三に、「よりよいものをめざして、他者と出会いながら、深く考える」ことである。そのためにも、授業を一方的に「まとめて」終えてしまうような短絡した扱いは慎みたい。安易にわかったことに満足せず、さらによい方法、誰もが納得できる表現はないか、これで自分は本当に問題の解決に近づいているのか、と「ふり返る」ことを大切にしてほしい。さらにクラスの友達、追究過程で出会った人々の多様な思い・考えに正対して、自分自身の思い・考えを見つめ直しながら、他者との間に相互に啓発し合うような省察と探究が深まることを期待したい。

## 若手教員の使用にも効果のある教科書

少子高齢化が進むなか、大都市圏では世代交代期に入り、若手教員の大量採用が続いている。地方では学校の統廃合も進み、依然として採用の急増は見込めないが、それでも徐々に新任教員の数は増えつつある。

当面、学校では、二十代半ばから三十代の若手層と、五十歳前後とそれ以上のベテラン層の二極分化が進む。本来であれば、中堅教員が量的質的に充実して、若手をリードし、学校を活力あふれる場として推進していくところであるが、現実には、大量に採用された若手教員の育成にまで手が回らず、ベテラン層からも十分なサポートが得られないまま、中堅教員は疲弊さみである。ルーチン化された仕事は着実に果たされるが、創意工夫や革新的な取り組みは敬遠されがちになる。

こうした状況下で、多くの若手教員にとっては、クラスづくりとともに日々の授業づくりをどうしたらよいか大きな課題となっている。今日求められる教科書は、子どもと同時に、こうした若手教員にとっても、わかりやすく扱いやすい、しかも内容の充実したものでなければならない。

わたしたちは、子どもにとっても教師にとっても見やすく使いやすい教科書、充実した内容と学びがいのある教科書をめざして編集作業にあたってきた。社会科の実践では、特に、「基礎的・基本的な知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」をいかに子どもに身に付けさせるか、そのための指導の改善を図ることが重要な課題となっている。そうした課題をふまえて改訂を進めてきたのである。

平成27年度版「小学社会」は、全編を通じて、子どもにとっての直接的な使いやすさ、わかりやすさとともに、指導にあたる先生方にとっても、子どもの思考に寄り添い、重要な指導事項や深く考えさせていく際の支援のポイントを随所に明示した教科書となっている。

## 教科書改訂のねらいと特色

### 1 学び合い・考え合いを支える教科書

- 学年の冒頭単元に「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」を位置づけ、問題解決的な学習の流れを提示し、学習問題をつくる場面をていねいに表している。
- 関心や意欲を喚起する話題を豊富に提供し、「つかむ」場面の改善を図っている。
- 大単元の末尾に「深める」を位置づけ、学び合いを通じて社会参画に向けた力を育む学習活動を例示し、子どもが「深く考える」ための場を提供している。

### 2 知識や概念の確実な定着を支える教科書

- 問題を追究していくうえで不可欠となる重要な言葉を「キーワード」として抽出し提示している。「キーワード」は巻末にも再掲し、重要事項の索引として活用することで、さらに効果を高められるようにしている。
- 小単元の末尾に「まとめる」を位置づけ、設問に答えてふり返る場を生かしながら学習をまとめることができるようにしている。設問は、「知識・理解」を問うものと「思考・判断・表現」を問うものを明瞭にし、指導と評価の一体化に資するよう工夫している。
- 巻末に「地図さくいん」を掲載して、地図帳との連携を図りながら学習が深まるようにしている。

### 3 わかりやすく見やすく、学びがいのある教科書

- 教科書の構成や紙面の趣旨をわかりやすくした。「必ず学ぶページ」と「必要に応じて活用するページ」の区別の明確化や、紙面の趣旨をマークだけでなく文字で伝えるよう工夫している。
- 巻頭に「教科書の使い方」を配置し、教科書をどのように活用していけばよいかが一覧できるようにしている。
- 資料を活用した学び合いを支える手立てとして、資料のネームにア、イ、ウの記号を明示した。
- 規則性を重視した見やすく落ち着いた紙面構成を心がけた。また、3・4年には、子ども自身が参照して、調べ方や学び方の見通しをもつことができる「わくわく！社会科ガイド」を設けている。

# 「小学社会」の特色

学習指導要領の趣旨のより確実な実現と、社会の諸変化への対応を図るべく改訂した「小学社会」の見本が完成しました。その主な特色を、紙面と共にご紹介します。



## ■ 問題解決的な学習の進め方をわかりやすく例示

各学年の最初の単元で、社会科の学習の流れや活動のすがたを具体的に示しました。子どもが確かな見通しをもって学習にのぞむことができます。

### 問題解決的な学習の過程を提示

地域や社会、暮らしについて考え合い、表現し合う学習場面を例示しました。さらに、「これから」について考えていく「深める」を位置づけています。(➡本紙 p.8 参照)。

### 学習問題をつくる場面

本ページに至るまでの学習内容を受けて、問題解決的な学習を進めていくうえで大切な「問題づくり」の過程を、ていねいに示しました。

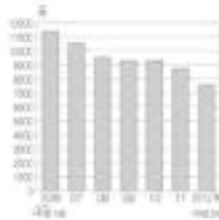
### 考え合い、表現し合う子どもたちのすがた

新版教科書では、考え合い、表現し合う活動をすべての学習過程に位置づけ、適宜、例示しています。

### 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

**つかむ** これまでの体験や資料をもとに、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくらう。

こうたさんたちは、自分たちの市で起きた交通事故の件数や、事故でけがをしたり、なくなったりした人の数のグラフを見て、気づいたことや疑問に思ったことを話し合いました。そして、話し合ったことをもとに、学習問題をつくりました。



事故の件数や、事故でけがをしたり、なくなったりした人の数が、だんだんへってきたのは、なぜだろう。

事故の割合に当たっているのは、警察署の人だけなのかな。

事故の件数がへっているのは、警察署の人が努力しているからかな。警察署の人から話を聞いてみたいね。

事故をへらすために、警察署の人だけでなく、地域の人々も、何か取り組ましているのではないかな。

**学習問題** 警察署や地域の人々は、交通事故をふせくために、どのようなことをしているのだろう。

- 調べること**
- ◎学校のまわりの道路の様子や、交通事故をふせくためのしせつを調べる。
  - ◎交通事故をふせくための、警察署の仕事を調べる。
  - ◎地域で行われている、事故をふせくための取り組みを調べる。

# 特色1



## 問題解決的な学習の進め方が身につきます

子どもたちが自ら問題を見だし、解決に向けて考え合い・表現し合いながら追究していく「問題解決的な学習」の過程をわかりやすく示しました。教科書の活用を通して、学習の進め方が効果的に身につく構成・展開となっています。

### 調べる

学習問題を解決するために、地域を歩いたり、しぜつを見学したり、人から話をきいたりして、調べよう。

#### ポイント

- 何について調べるのか、どんな話をききたいのかを、前もってノートやメモに書いておく。
- 調べたり、話をきいたりしながら、大切に思ったこと、疑問に思ったことをメモする。
- 地域を調べるときには、気づいたことを地図に書きこむ。
- 気になる場所の写真をとる。



### まとめる・深める

調べてわかったことや、考えたことを整理して、学習問題を解決しよう。そして、学習したことをいろいろな方法で表して、交流しよう。

#### ポイント

- 調べたことを整理して、ノートなどに書き表す。
- わかったこと、考えたことを、かけて書く。
- わかったことや、考えたことを話し合う。
- 自分の考えを話すときは、なぜそう考えたのかを伝える。
- 友だちの考えや他の人の考えをよくきく。
- 自分の考えと同じところや、ちがうところはどこか。
- 友だちや他の人の考えをきいて、自分はどう思ったか。



## 考え合い、表現し合う学習活動のポイント

学び合いを通して思考が深まったり変容したりする活動を重視しています。内実豊かな言語活動にしていくなポイントを示しました。



ほかに	
3・4上	p.10-11
5上	p.21-22
6上	p.12-13

## 特色2



### 問題解決に必要な知識や技能の確かな習得を支えます

問題解決に向けた追究を自ら進めていくうえで不可欠の基礎的・基本的な知識や技能を明示して、わかりやすく解説しました。  
また、知識の整理と定着を確実に図ることができるようにしました。

### ■ 問題解決に必要な知識を「キーワード」として提示

学習を進めていくうえで特に大切なことばを「キーワード」として示しました。



**キーワード**

- **ライン**

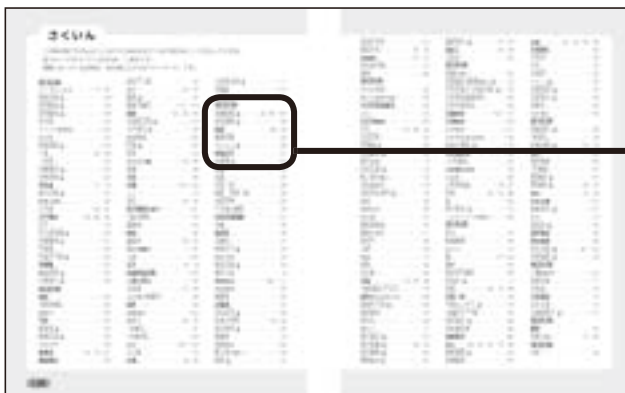
**解説** 決められた順番どおりに、人やロボットが分担して作業を行い、製品をつくり上げていく一つの流れのこと。一つの工場の中に、いくつものラインが組まれていることもあります。

難しい語句には「解説」を付しています。

5上 p.116

キーワードは、その本旨に則り、原則として本文中に位置づいています。

### ■ 学習のふり返りに役立つ「さくいん」



**キーワードは太字で提示  
人物はマークを付して提示**

<b>さ行</b>	
西郷隆盛	93, 94, 100
坂本龍馬	93
鎖田	69, 90
薩長同盟	93
ザビエル	59
参勤交代	67

6上 p.148

3・4上下には「キーワード」の一覧を掲載しています。

## ■小単元の学習を整理する「まとめる」

基礎的・基本的な知識や概念の整理・定着を図り，学習問題の追究を通してわかったことを自分のことばで表現する力をつけられるように，設問形式の活動を小単元の末尾に位置づけました。



### 知識や概念の整理・定着を図る設問

まとめる

キーワードに注目して学習をふり返ろう

ライン 関連工場 ジャスト・イン・タイム方式 輸送手段 ニーズ エコカー

①自動車工場のラインの流れをふり返り，作業の順番どおりに□に番号を入れましょう。また，( )にあてはまる作業の名前を考えましょう。







( プレス )
  ( )
  ( )
  ( )
  ( )

②自動車づくりに求められていること(ニーズ)と，それぞれのニーズに応える自動車づくりのくふうや取り組みを，表にまとめましょう。

ニーズ	くふうや取り組み
駐車や運転をしやすくしてほしい。	自動車を上から見ているような映像をうつし出す装置を取り付ける。

③自動車が生産されて人々のもとにどくまでの様子をふり返り，その中で大切だと思ったくふうや努力を選びましょう。また，なぜそれを大切だと思ったのか，自分の考えをまとめて，ノートに書き表しましょう。

わたしが大切だと思ったことは，\_\_\_\_\_です。  
 大切だと思ったわけは，\_\_\_\_\_。

131

5上 p.131

### 追究の帰結について表現することをうながす設問

「キーワード」を生かして表現するよう指導することもできます。

### 小単元の学習をふり返る「キーワード」の一覧

### 特色3



## 公民的資質の基礎を養い、 社会参画に向けた意欲を高めます

歴史や社会との関わりをしっかりと意識し、よりよい地域・社会の創造に主体的に参画していこうとする意識や態度が涵養されるよう工夫をしました。

## ■ 地域や社会のこれからを考え合い、表現し合う「深める」

学習したことをふまえて、子どもたちが、地域や社会、自分たちの暮らしの「これから」についてさらに深めていく活動場面を位置づけました。

内実豊かな言語活動の進めるための  
手順や留意点を具体的に例示

さまざまな表現の  
手法を例示

5上 p.102 ~ 103

言語活動を通した「思考の深まり」や「思考の変容」が見られる子どものすがたを例示

3・4年  
「発信型」の表現活動を  
重視しました。



## 特色4

### すべての子どもの学びを支えます

わかりやすく学びやすい紙面にすることで、確かな学力の獲得につなげていくことをめざしました。



## ■ 発達において特別な教育的ニーズのある子どもに配慮

通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもに配慮し、ユニバーサルデザインにもとづく紙面にしました。

### 3・4上下は毎時の学習の順序と内容を簡潔に提示

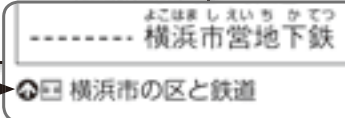
一人一人が見通しをもって学習にのぞむことができます。



3・4上 p.28 ~ 29

### 折り返しの多い一文は読みやすさを考慮して改行

### 安定的でパターン化された紙面レイアウト



### 資料のネームにカタカナの記号を提示

どの資料に注目すればよいのかを、簡潔に指示することができます。

## ■ 色覚の特性に配慮した「カラーユニバーサルデザイン」にもとづくデザインと配色

# 学年の特色 — 5年

## ■ 地域の実状に応じて選んで学べる「せんたく」

学習指導要領で選択して取りあげることとされている内容を複数扱い、教材の多様性を重視しました。「自然条件から見て特色ある地域」「食料生産」「情報」の各単元は、教科書の内容をもとに、地域の実状などに応じて、選択して学習することができます。

5上 p.24～29  
寒い地域(北海道)のくらし

せんたく あなたが住む地域のくらし(24～29ページ)のかわりに、38～43ページをもとに学習することもできます。

学習指導要領に示された選択の趣旨をわかりやすく表しました。

## ■ 「医療」の事例をもとに追究する「情報ネットワークの有効な活用」

子どもに身近な「教育」(公共図書館)の事例から導入し、「医療」の事例を中心に位置づけ、問題解決的に追究していきます。

5下 p.14～15

## ■ 防災教育との連携を重視し、一層の充実を図った「自然災害の防止」

学習指導要領の趣旨にそくして、「国土の環境との関わり」「国や県などによる対策事業」に関わる内容を中心に、単元全体としてボリュームアップとリニューアルを図りました。東日本大震災の教訓を踏まえて「自助」「共助」にも触れています。



5下 p.40～47 自然災害とともに生きる

## ■ 社会の「いま」をとらえ「これから」を考えていく新しい資料

これからの社会を生きていくうえで知っておくべき新しい出来事を、数々の資料で紹介しています。



5上 p.157



5下 p.9



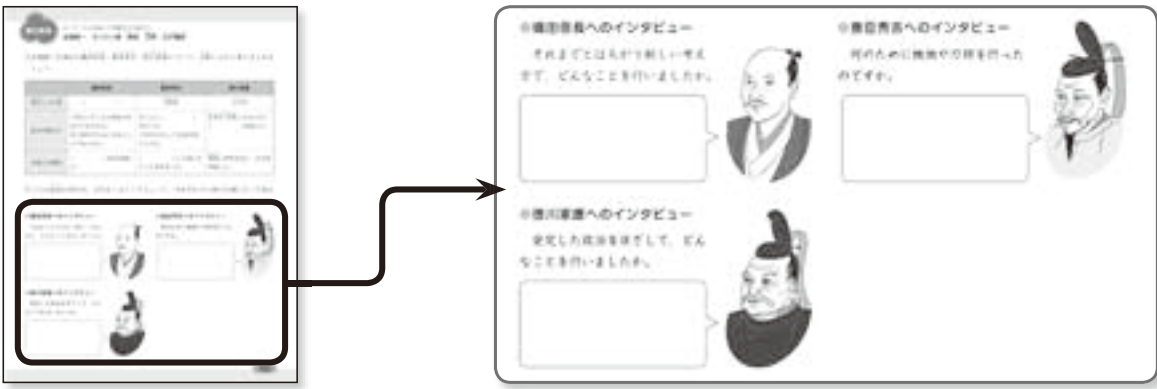
# 学年の特色 — 6年

## ■ 人物や文化遺産に重点を置いた歴史学習

時代を代表する人物や文化遺産について調べたり考えたりする活動を重視し、具体的に例示しています。



6上 p.24 ~ 25 歴史上の人物について調べ、表現する



6上 p.63 歴史上の人物の事績をふり返りながら学習を整理する



6上 p.93 人物調べのノート例

## ■「持続可能な社会」の創造を柱に構成した政治単元・国際単元

政治単元・国際単元は、「持続可能な社会」のあり方を考え、そうした社会づくりに積極的に参画していく主体の形成という趣旨を軸にして内容を構成しました。



6下 p.2～3 暮らしの中の政治  
少子化・高齢化の問題から導入し、暮らしと政治の関わりについて考えていきます。



◎岩手石弘城ウィンドファーム  
岩手県  
新石市・遠野市・大槌町にまたがって、43基の風力発電施設が設置されています。



6下 p.54～57 イスラム教とともにある暮らし  
サウジアラビアについて調べることを通して、文化の多様性を理解し、尊重する態度を養います。

6下 p.24～25  
災害からわたしたちを守る政治

スマートコミュニティをめざす岩手県釜石市の復興に向けた取り組みから、新しいまちづくりのあり方について考えます。

# 小学校社会科における東日本大震災とその教材化

東京学芸大学教授 おおさわ かつみ  
大澤 克美

## 1 はじめに

東日本大震災が起こった2011年3月11日から、早くも4年の歳月が流れました。全国の人々が息をのんだ津波のインパクトは多少薄れたかもしれませんが、復旧・復興の現実をみても明らかなように、その傷跡は未だ回復されてはいません。時間の経過と共に、その被害がより深刻化していることも多く、阪神・淡路大震災によって学んだことが必ずしも生かされているとは言えない状況です。東日本大震災は、科学技術が発展した現代社会に存在するリスクを改めて印象づけたものであり、私たちがリスク社会に生きていることに自覚的であるべきことを強く示唆していると考えます。

今を生きる子どもと教師が、自らの生活や社会について考え、理解する社会科は、東日本大震災の現実をどのように受け止め、そこから何を学び取ればよいのでしょうか。これは、リスク社会の社会科教育にとって重要な課題となっています。同時にそれは、合理的な社会認識の育成による市民的資質の涵養を目的とする社会科を、リスクという新たな観点から見直すきっかけともなるはずです。

## 2 東日本大震災と第5学年の社会科

東日本大震災を小学校社会科のどこで取り上げるかを考えた時、すぐに思い浮かぶのは5年生の国土学習に位置づけられた「自然災害の防止」でしょう。ここでは、自然災害の代表的な事例として東日本大震災を取り上げ、その実態と被害を防

ぐための取り組みについて調べ、どのように自分たちの安全を守るのかを考える学習が想定されます。

その中では、行政の対策・事業や市民の防災への取り組みを知り、個々の防災意識を高めることの重要性に気づくだけでなく、事例を通して防災・減災における人々の多様な連携・協力・連帯の意味を考え、社会参画への可能性を主体的に探る学習が求められます。新版教科書5年下の国土学習で、小単元「自然災害とともに生きる」を設定しているのもそうした意図によるものです。被災地の事実を学ぶことから、自地域で予想される災害への対応を考えたり、被災した人々の思いを理解しようとするところから、防災への当事者性を高めたりする学習も期待されます。



▲「自然災害とともに生きる」(5下P.40～47)より

上記に加えて、5年生では「情報産業」の学習で、東日本大震災におけるメディアの働きを事例として取り上げることが考えられます。ここでは、人々が放送や新聞、インターネットなどによって必要な情報を入手していることを調べ、発信側の役割や責任、受信側の活用方法について考えさせるという一連の学習過程に震災時の事例を位置づ

けます。そうすることで、状況に応じた適切な情報提供のあり方と、その活用方法をより切実に追究する学習ができるはずです。極限状況の中で生き抜くために、情報がいかに重要であるかに気づかせることが大切でしょう。



▲「暮らしを支える情報」(5下 P.2～27)より

新版教科書5年下の大単元「暮らしを支える情報」では、そうした学習の一例を示すと共に、新聞やテレビなどのマスメディアと、地元密着型のケーブルテレビ・FMラジオなどの地域メディアの相互補完的な利用、あるいは携帯電話やパソコンを使ったインターネットによるインタラクティブな情報通信機能の活用についても発展的に考える機会を提供しています。当然のことながら、東日本大震災の事例を取り上げる中では、原発問題に関わる風評被害や災害弱者の支援といったメディアの責任と役割についても学習することが可能です。

さらに、「情報化した社会の様子」において、東日本大震災における防災情報の事例を取り上げることから、安全に関する公共サービスとその利用方法について学習することもできるでしょう。ここでは、防災情報についての事例として適切な被災地を選び、その情報システムを取り上げて、そこに見られた発信側及び受信側の問題点と震災後の改善点を調べ、自地域の防災情報システムをどのようによりよいものにしていくか、自分たちは提供された情報をどのように活用するかを考える学習が想定されます。「**せんたく**」防災に生か

す情報ネットワークシステム」(5下 p.21)は、そうした学習の入り口として設けられたものです。

強い地震とそれによって起きる津波は自然現象であるため、大震災は一見わかりやすく感じますが、その被害は実に多様で広範囲に及ぶものであり、自然現象による被害と人為的な被害が明確に区分できない場合も多くあります。こうした複雑さを伴った複合災害である大震災の教材化では、何をどのように取り上げるのかについて慎重な調査と研究が必要です。被災した方々の人権に関わることはもとより、被災地の社会的事象を事例にするに当たっても、特段の配慮が求められます。東日本大震災を歴史の中に埋もれさせないよう授業で積極的

に取り上げることは重要ですが、一方で被災した方々の心情や状況を理解し寄り添う姿勢や、安全な社会づくりを被災地域と共にめざすといった態度が不可欠であろうと思います。

### 3 東日本大震災と第3・4学年の社会科

中学年では、「地域社会における災害及び事故の防止」についての学習で、東日本大震災を事例として取り上げることが想定されます。1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災以降、東海・東南海・南海等で起きるといわれる大地震に対していかに備えるかは、被害が予想される地域にとって大きな課題でした。そうした地域では、東日本大震災あるいは阪神淡路大震災の事実から予想される被害を知り、対策としての備えを調べて、防災・減災の課題や自分たちの取り組み方を考える学習は不可欠でしょう。

地域によっては、対象とする災害を地震に焦点化することもあります。新版教科書3・4年下の小単元「災害からまちを守りたい」では、子どもにわかりやすい火災と対策が捉えにくい地震災害とを連続させ、災害の防止を一体的に扱う単元

例を提示しています。ここでは、火災の学習を生かして、身近な震災用の施設・設備を具体的に調べた成果を、視覚的に捉えにくい行政の防災システムの理解に結びつけることが重要です。

東日本大震災を事例にする際には、単に被害を具体的に理解させるというだけでなく、これまでの被害によってさまざまな対策が取られていたにもかかわらず、想定を越える現象が起こったことにも着目させるようにすべきでしょう。その意味で、現在進められている対策や施設・設備に安心することなく、住民の取り組みを含めてそこに残された課題を明らかにすることが期待されます。リスクには科学的に明確な説明と予想のできないことが少なからずあることを受容し、科学が必ずしも正しい見解を導き出せないからこそ、その対応において人間の知恵が求められていることに留意する必要があります。

また、中学年の内容には「飲料水、電気、ガスの確保」があるため、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、電気の確保についての学習を展開することも可能です。ここでは、生活に不可欠な電力の安定供給を前提として、各発電方法がもつメリットとデメリットを明らかにし、電気をこれからどのようにつくるべきか、自分たちはどのように電力消費量を減らすのかを考えることが重要です。福島に見る原発の安全性に関する問題は、使用済み核燃料の処分問題などとも合わせて、海外も含めた社会の安全に深く関わるものであることに配慮が必要でしょう。

ただ、原発問題はもちろんのこと、大震災の教材化に当たっては、学習者とその家族の中に被害者あるいはリスク要因の関係者がいる可能性に留意しなければなりません。さらには、放射能汚染のような限定なき危険への対応はとすると個別化し、例えば金銭の有無により安全性の確保に大きな差が出る事態なども考慮する必要があります。

## 4 東日本大震災と第6学年の社会科

第6学年では、「政治の働き」について取り上

げる事例の一つに「災害復旧の取り組み」が例示されており、東日本大震災における復旧・復興を取り上げることができます。ここでは、復旧・復興についての適切な事例地を選定し、災害当初の状況と対応、復旧工事などへの取り組み、復興計画の検討といった段階に見られる行政の働きと、それに関わる住民の要望を調べ、政治と人々の生活との関わりや自分たちの願いを実現する政治の働きについて考える学習が想定されます。新版教科書6年下の小単元「災害からわたしたちを守る政治」は、そうした学習の参考になることを意図したものです。

このような学習の中では、事例地の震災時からの変容を理解することにとどまらず、地域の安全性の向上はもちろん、まちを支える産業の復活と仕事の確保などについても、政治がどのように取り組んできたかを考え、政治と市民の関係に気づかせるようにすることが期待されます。被災地には、津波等から先ずは生命を守り、その後いち早く産業を復活させ、働く場所をつくることで復興を進めてきた事例があるので、これらの教材化が検討されるべきです。当然ながら事例地において、必ずしも政治と市民の願いが一致しているわけではなく、利害対立を生じている地域もありますが、これを民主主義の政治とはどのようなものかを考える機会とできるならば、貴重な発展的学習が可能となるでしょう。

## 5 おわりに

東日本大震災に見るリスクの問題に対応するには、専門的な知識を活用した民主的な議論と、協同的な問題改善への取り組みが必要です。そのためには、リスク情報を隠さず社会に伝達し、専門家と市民が対等な立場で相互啓発的に話し合い、合意形成を図るリスクコミュニケーションが重要になります。社会科は公民的資質の涵養によりその実現にいかにか寄与できるのか、これが東日本大震災が我々に与えた課題ではないでしょうか。



# 被災地における社会科教育の充実をめざして

～震災後の社会科副読本編集作業を中心に～

陸前高田市教育委員会指導主事

## 1 はじめに

陸前高田市の人口は、震災前約2万4000人。小さいながら、海と川と山にかこまれ、とても自然豊かな暮らしやすい町だった。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、陸前高田市は壊滅的な被害を受けてしまった。

死者・行方不明者が1900人を超える人的な被害の他、市役所、病院、警察署、消防署、図書館、体育館等の行政機関、公共施設のほとんどが被災し、陸前高田市のシンボルであった、白砂青松の景勝地「高田松原」も消失してしまった。

見慣れた風景や町並みはもうどこにも残っていない。まさに、「町一つ」が失われてしまったのである。

## 2 震災後の取り組み

震災直後から、一日も早い「学びの復興」をめざし、教育委員会と学校とが連携しながら教育環境の整備に努めてきた。当初は、校舎の復旧や運動場の整備など、ハード面の復旧が最大の課題であった。しかし、徐々に物的環境が整ってくると、学習内容そのもののさまざまな困難さに直面することとなる。その一つが、社会科における地域学習であった。

社会科では、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」と言われるように、地域を学習対象とし、教材とすることが多いが、その「地域」そのものが失われてしまった状況だったのである。

しかし、限られた環境の中でも、子どもたちの学びの充実を図るよう、先生方は最大限努力した。

震災直後であっても、子どもたちにはできるだけ体験的・問題解決的な活動をさせてあげたい。学習対象や学習活動の制限はやむをえないが、その中でも、学習のねらいをふまえて実施可能な学習を進めていくこととした。また、近隣の市町村の協力もいただきながら、被災していない博物館の見学や、警察署・消防署等での体験活動をさせてもらったり、内陸の学校から招待していただき、合同の交流学習として社会科見学をさせてもらったりした学校もある。

## 3 社会科副読本の作成について

教育委員会としては、震災翌年の平成24年度から、「社会科副読本編集委員会」を組織し、震災後の状況に対応した社会科副読本の編集に着手した。

めざしたものは、小学校3・4年生の社会科で補助的に使用する単なる「社会科副読本」ではない。郷土がなくなってしまった今、郷土のよさを知り郷土に愛着をもつ、また、復興のために努力するさまざまな人の思いに触れる大事な教材。そして、3.11後の陸前高田市の未来を考えていく特別な重みをもった教材として位置づけ、作成を開始することとした。

## 4 社会科副読本の作成経過

それまでの社会科副読本のデータ等もすべて流出してしまったため、全くゼロからの再出発である。そもそも町の状況が一変し、旧副読本の内容はほとんど使えない。また、復興に向けたまちづくりの途上であり、数ヶ月、数年単位で町の様子

も刻々と変化することが予想される。一度にすべての内容を改訂することは難しいため、毎年2～3単元の改訂を行い、平成26年度末までの完成をめざした。そして、改訂を終えた単元から学校ですぐ活用できるように、分冊という形（1単元1分冊）で配付することとした。

## 5 社会科副読本の内容

平成24年度に改訂作業を終えた「第4単元 さぐってみよう昔の暮らし」「第7単元 昔から今へと続くまちづくり」の中から、いくつか内容を紹介したい。

### 【第4単元 さぐってみよう昔の暮らし】

#### 1 まちの人たちが受け継ぐ行事

陸前高田には多くの伝統芸能や祭りがある。中でも約900年前から始まったとされる「けんか七夕」「うごく七夕」は陸前高田の代表的な祭りであり、夏の風物詩であった。人々は、震災直後の平成23年の夏にも、まだ瓦礫の多く残る町で七夕祭りを行った。地域の復興には人と人のつながりは欠かせないものであり、その核となるのが



「祭り」であり「伝統文化」だからである。

この小単元では、震災後に行われた祭りの様子も取り上げながら、地域の人々が祭りに託した復興への願いや思いをつかませる内容とし、形あるものがすべて失われてしまった今だからこそ、伝統や文化を大事に引き継いでいこうという態度の育成をはかった。

### 【第7単元 昔から今へと続くまちづくり】

#### 2 高田松原を作った人々

高田松原は、今から約350年前、農作物を潮風から守る防潮林として植えられ、その後長い間、陸前高田の人々を守り続けてきた。これまで幾たびか三陸を襲った津波により大きな被害を受けながらも、そのたびに人々は新たに松を植え、高田松原を守ってきた。しかし、今回の津波により、約7万本あった松の木は、ただ一本を残して倒されてしまった。残った一本はやがて「奇跡の一本松」と呼ばれ、苦難に負けない復興のシンボルとして多くの人々を励ますようになる。

実際の風景は失われても、先人から受け継がれてきた「思い」は途絶えさせたくない。「奇跡の



一本松」の命をつなぎ、美しい高田松原の復活に向け努力する人々の活動を通し、先人の苦勞やその末に築かれたふるさととの良さへの気づきをねらいに、本小単元を設定した。

### 「第7単元 昔から今へと続くまちづくり」

#### 3 これからの陸前高田市

「高田松原を作った人々」の後に、オープンエンドの学習として設定した。4年生の最後、地域学習のゴールとしても位置づけている小単元である。

昔、荒れた土地で作物が育たなかった陸前高田に、子孫のことを考えて松を植えた先人たち。震災で何もかも無くなってしまったふるさとを、未来のために再生しようとしている、今の陸前高田の状況とまさに重なるものがある。そして、未来を創っていくのは、間違いなく、今学んでいる子どもたちである。過去から現在へと続く人々の思い・つながりに気づかせ、未来に向けて、今自分たちがなすべきことを考える。自分たちも新しいまちづくりに参加していこうという「社会参画」の意識を育てる、そのようなねらいから本小単元

を構成した。

平成25年度は、「2 見直そうわたしたちの買い物」「3 調べよう物を作る仕事」「6 健康なくらしとまちづくり」の3単元を改訂予定である。本来の社会科の目標をふまえつつ、それぞれ、市民のくらしを守ろうと仮設商店街を作った店主の人々の思い、農林水産業の復興に向けて働く人々の努力、震災後の水道の無い生活の苦勞から水の大切さに気づかせる内容、等を盛り込んでいる。

## 6 おわりに

震災があって、被災地では地域学習の目的がよりはっきりとした。「地域の発展に尽くした先人の働きについての理解」や「地域社会に対する誇りや愛情を育てる」といった学習指導要領の目標が、より切実なもの、鮮明なものとして捉えられるようになったのである。郷土を愛する、ふるさとに誇りをもつ子どもたちを育てていく上で、社会科の、そして、社会科副読本の果たす役割は大きいと考えている。

復興への道のりはまだまだ長く、険しいものの、平成26年中には新しい消防防災センターやコミュニティホールも完成する予定であるなど、少しずつ復興にむけた鈍音も響いてきた。本市の社会科副読本も、平成26年度には残る2単元「1 もっと知りたいみんなのまち」「5 安全なくらしとまちづくり」の改訂作業を終え、完成予定である。その2単元には、新しくできた消防防災センターの様子も含め、地域の再生や新しいまちづくりの様子も多く盛り込んでいきたいと考えている。

希望に満ちた社会科副読本になることを、希望に満ちた町になることを、そして、夢や希望にあふれた子どもたちが育っていくことを、切に願っている。





第12回

# 地球となかよし メッセージ

## 作品募集(2014年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2014年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

- ◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
- ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
- \*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



たんぼぼって、すごい!

おにわに、もうすぐ「わたげ」になりそうな「たんぼぼ」がありました。それを、ママがぬいでしまいました。「かわいそう」とおもって、もうすぐ、わたげになりそうな「たんぼぼ」を、そおつとそのまま、げんかんにおいておきました。するとびっくり!! 水をつけていなかったのに、2日ごとに白い大きな「わたげ」になっていました。「たんぼぼ」のつよさにおどろきました。かっってきた、花びんのお花は、水につかっていたら、すぐにかれてしまうのに。

しぜんって、すごいなあとおもいました。わたしも、たんぼぼのように、こまったことがあってもじぶんでなんとかできるつよさを持ちたいです。

小学社会通信 まなびと [2014年 春号] 2014年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411